



# 2013年3月期決算 プレゼンテーション資料

2013年4月  
大阪ガス株式会社

# I. 13.3期決算と14.3期見通し

**インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています** : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/company/ir/>

**「見通し」に関する注意事項** : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

**ガス販売量に関する注記** : 全て、基準熱量を45MJ/m<sup>3</sup>として、表記しています。

**連結ガス販売量に関する注記** : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

本日は、お忙しいところ、当社の決算説明会にお集まりいただき、ありがとうございます。

また、平素は、当社事業につき、ご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ただ今から、2013年3月期決算と、2014年3月期の見通しについて、ご説明させていただきます。

# 13.3期決算のポイント

## 対前年比較

### ■ 概況

連結売上高	LNG価格の上昇に伴うガス販売価格の上昇や、器具販売売上の増加などにより、 <b>前年比6.6%増収の1兆3,800億円</b> 。
連結経常利益	LNG価格の上昇に伴う時期ずれ差損が前年より縮小し、ガス粗利益が増加したことなどから、 <b>前年比19.1%増益の901億円</b> 。 <b>時期ずれ差損は207億円発生</b> (前年の時期ずれ差損は307億円)。

### ■ ガス販売量

家庭用	ほぼ <b>前年並みの2,272百万m<sup>3</sup></b> 。
商・公・医療用	お客さまの省エネルギー推進などにより、 <b>前年比2.2%減少の1,540百万m<sup>3</sup></b> 。
工業用	お客さま設備の稼働減などにより、 <b>前年比3.1%減少の4,222百万m<sup>3</sup></b> 。

2013年3月期は、増収・増益の決算となりました。

連結売上高は、LNG価格の上昇に伴う、ガス販売価格の上昇や、器具販売売上の増加などにより、前年と比べて6.6%増収の1兆3,800億円となりました。

連結経常利益は、LNG価格の上昇に伴い発生する時期ずれ差損が前年より縮小し、ガス粗利益が増加したことなどから、前年と比べて19.1%増益の901億円となりました。

なお、原料費調整制度に基づく時期ずれ差損は207億円発生しております。

ガス販売量について、家庭用は、ほぼ前年並みの22億7,200万m<sup>3</sup>となりました。商業用・公用・医療用は、お客さまの省エネルギー推進などにより、前年を2.2%下回る15億4,000万m<sup>3</sup>となりました。

工業用は、昨年8月以降、お客さま設備の稼働の減少などが顕著になっており、前年を3.1%下回る42億2,200万m<sup>3</sup>となりました。

# 13.3期決算のポイントII

## 対見通し比較

### ■ 概況

連結売上高	ほぼ見通し並みの <b>1兆3,800億円</b> 。
連結経常利益	関係会社や電力事業の利益が増加したものの、LNG価格の上昇に伴う原材料費の増加により、ガス粗利益が減少したことなどから、 <b>見通し比5.1%減益の901億円</b> 。 <b>時期ずれ差損は207億円発生</b> (見通しの時期ずれ差損は29億円)。

### ■ ガス販売量

家庭用	下期の気温影響などにより、 <b>見通し比2.0%増加の2,272百万m<sup>3</sup></b> 。
商・公・医療用	下期の気温影響などにより、 <b>見通し比2.8%増加の1,540百万m<sup>3</sup></b> 。
工業用	お客さま設備の稼働減などにより、 <b>見通し比2.3%減少の4,222百万m<sup>3</sup></b> 。

### ■ その他

新規事業拡大投資	米国テキサス州シェールガス・オイル開発プロジェクトや、カナダ・オンタリオ州太陽光発電事業に参画。既に稼働を開始。投資実行額は計857億円。
配当	13.3期に <b>対前年0.5円/株増配</b> を予定(14.3期は年間9円/株を予定)

Design Your Energy 夢ある明日を  


続きまして、2013年3月期の決算を、10月に発表しました修正見通しとの対比でご説明します。

連結売上高はほぼ見通し並みとなりました。

連結経常利益は、関係会社や電力事業の利益が増加したものの、LNG価格の上昇に伴う原材料費の増加により、ガス粗利益が減少したことなどから、見通しと比べて5.1%減益となりました。

なお、原料費調整制度に基づく時期ずれ差損は見通しと比べて、178億円拡大しております。

ガス販売量について、下期の気温が見通しより低く推移したため、家庭用および商業用・公用・医療用は、見通しを上回りました。

一方、工業用は、お客さま設備の稼働の減少などがさらに進み、見通しをも下回りました。

新規事業拡大投資では、米国のシェールガス・オイル開発プロジェクトやカナダの太陽光発電事業などに参画し、既に稼働を開始しております。

2013年3月期の投資実行額は857億円となりました。

主に関係会社や電力事業の利益が順調に積み上がってきたことなどを踏まえ、2013年3月期の配当は前年から0.5円増配の年間8.5円を予定しております。

また、2014年3月期には、年間9円を予定しています。

# 13.3期ガス販売実績

45MJ/m <sup>3</sup>		A. 13.3期	B. 12.3期	前年差	前年比	13.3期 見通し	見通し比
個 別	お客さま数(千件)	7,086	7,045	+40	+0.6%	7,078	+0.1%
	新設工事件数(千件)	91	81	+10	+12.6%	82	+11.6%
	家庭用1戸当り販売量(m <sup>3</sup> /月)	32.5	32.6	-0.1	-0.3%	31.9	+1.8%
	家庭用	2,272	2,271	+1	+0.1%	2,229	+2.0%
	商・公・医療用	1,540	1,575	-35	-2.2%	1,497	+2.8%
	工業用	4,222	4,355	-134	-3.1%	4,322	-2.3%
	業務用計	5,761	5,930	-168	-2.8%	5,819	-1.0%
	他ガス事業者向け	469	480	-11	-2.3%	459	+2.2%
	(うち大口供給)	(4,894)	(5,062)	(-168)	(-3.3%)	(4,982)	-1.8%
	ガス販売量合計(百万m <sup>3</sup> )	8,503	8,681	-178	-2.1%	8,507	-0.0%
連結ガス販売量	8,534	8,711	-178	-2.0%	8,538	-0.0%	

ただ今ご説明しました、2013年3月期のガス販売実績を  
 まとめておりますので、ご確認下さい。

大阪ガス個別のガス販売量は、  
 前年を2.1%下回る85億300万m<sup>3</sup>となりました。

なお、ご参考資料として、31ページに、ガス販売量の月別の推移を  
 用途別に示しておりますので、あわせてご覧ください。

# 13.3期実績 I

連結:億円	A. 13.3期	B. 12.3期	( )内は連単倍率		13.3期 見通し	見通し比
			前年差	前年比		
売上高	(1.24) 13,800	(1.25) 12,947	+852	+6.6%	13,730	+0.5%
営業利益	(1.84) 847	(1.96) 772	+74	+9.7%	940	-9.8%
経常利益	(1.63) 901	(1.84) 756	+144	+19.1%	950	-5.1%
当期純利益	(1.49) 524	(1.76) 452	+72	+16.1%	610	-14.0%
SVA	186	119	+67	+56.1%	277	-32.8%
		A. 13.3期	B. 12.3期	前年差	13.3期 見通し	見通し差
連結ガス販売量	百万m <sup>3</sup>	8,534	8,711	-178	8,538	-4
時期ずれ差損益	億円	-207	-307	+99	-29	-178
原油価格	\$/bbl	113.9	114.2	-0.3	114.2	-0.4
為替レート	円/\$	83.1	79.1	+4.0	80.0	+3.1
連結子会社数		130	133	-3	---	---

13.3期原油価格実績は、3月速報値までの平均。SVA(Shareholders' value added)=NOPAT-投下資本×WACC。Design Your Energy 夢ある明日を

こちらには、2013年3月期の決算数値を  
まとめておりますので、ご確認下さい。

## 13.3期実績 II

連結:億円	A. 13.3末	B. 12.3末	A-B	備考
総資産	15,668	14,757	+911	固定資産の増加など
自己資本	7,478	6,845	+632	
有利子負債	5,401	5,413	-11	
在籍人員	19,870	19,818	+52	
自己資本比率	47.7%	46.4%	+1.3	
D/E比率	0.72	0.79	-0.07	
	A. 13.3期	B. 12.3期	A-B	備考
設備投資	1,129	871	+258	海外上流権益など
減価償却費	828	936	-108	特別償却が前年で終了
フリーキャッシュフロー	850	790	+60	
ROA	3.4%	3.1%	+0.3	
ROE	7.3%	6.7%	+0.6	
EPS (円/株)	25.2	21.7	+3.5	
BPS (円/株)	359.2	328.8	+30.4	

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設備投資による支出。Design Your Energy 夢ある明日を

7

 OSAKA GAS

資産・負債項目や、主な財務指標の実績は、ご覧の通りです。

自己資本は、利益剰余金の積み上がりに加えて、有価証券評価差額金や為替換算調整勘定が増加したことから、前年を632億円上回る7,478億円となりました。

設備投資は、主にオーストラリアや米国の上流権益の取得・開発を進めたことから、前年を258億円上回る1,129億円となりました。

減価償却費は、前年で、残存簿価5%到達資産の5年均等償却が終了したことなどにより、前年を108億円下回る828億円となりました。

ROAは、前年を0.3ポイント上回る 3.4%、ROEは、前年を0.6ポイント上回る 7.3%となりました。

# 中期計画(2009-2013年度)の進捗 |

## ■ 概況

### 全般

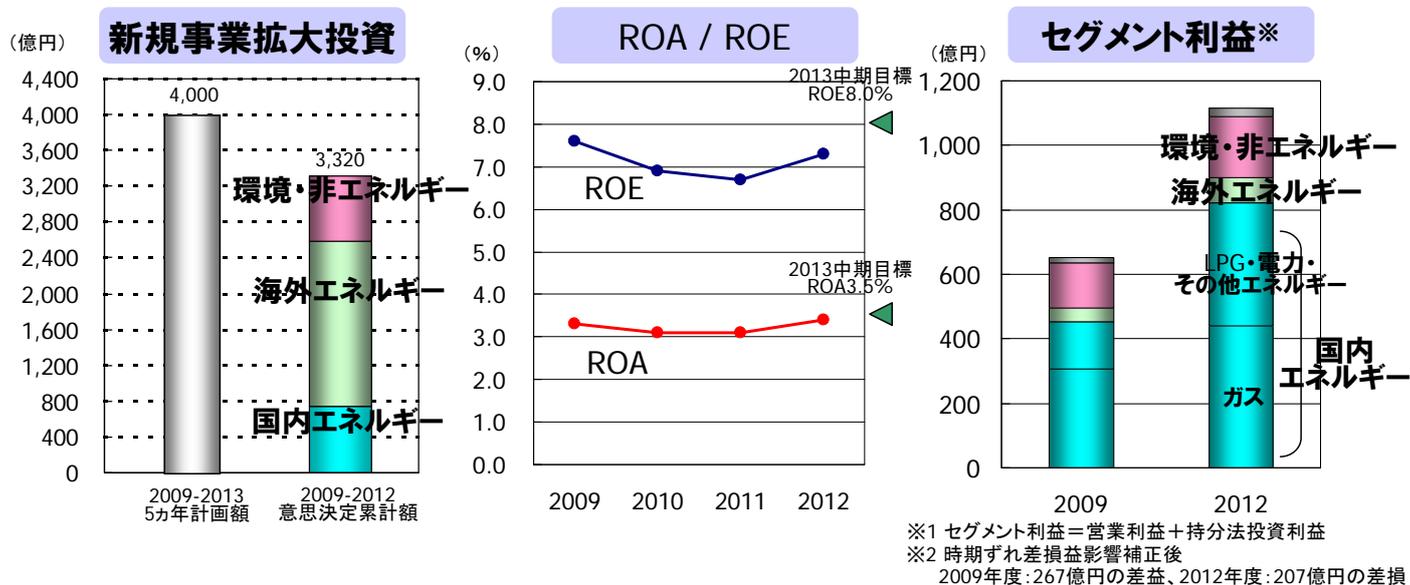
概ね計画に沿って進捗

新規事業拡大投資は5ヵ年計画(4,000億円)の83%を意思決定済み

### ROA / ROE

中期目標(2013年度にROA3.5%、ROE8.0%)に対して

順調に進捗(2012年度実績:ROA3.4%、ROE7.3%)



当社では、2009年3月に「大阪ガスグループ長期経営ビジョン・中期経営計画 Field of Dreams 2020」を発表しております。

5ヵ年中期経営計画について、4年が経過しましたことから、その進捗状況について振り返りたいと思います。

東日本大震災の起こる前に策定した計画ではありますが、概ね、計画に沿って、順調に進捗していると評価しています。将来の成長のための事業投資である 新規事業拡大投資は5ヵ年計画額の83%にあたる3,320億円を既に意思決定しています。

また、ROA、ROEの水準につきましては、200億円を超える時期ずれ差損の影響を受けながらも、中期目標として掲げているROA3.5%、ROE8.0%の水準に対して順調に進捗しています。

# 中期計画(2009-2013年度)の進捗II

## ■ 国内エネルギーサービス事業

分散電源	4ヵ年(2009-2012年度)の <b>エネファーム累計販売実績12,119台</b>
パイプライン	<b>三重・滋賀ライン、姫路・岡山ライン</b> を建設(2014年1月、2014年4月開通予定)
LNG販売	<b>沖縄電力(2012年度～)、静岡ガス(2014年度～)</b> と <b>LNG売買契約</b> を締結
電力事業	<b>泉北天然ガス発電所</b> (2009年運転開始)が東日本大震災後の電力需給緩和に貢献

## ■ 海外エネルギーバリューチェーン事業

上流LNG権益	<b>豪州ゴーゴン、イクシスLNGプロジェクト</b> からのLNG調達と権益取得を決定
シェールガスの取り組み	カナダおよび米国の <b>シェールガスプロジェクト</b> に参画 また、 <b>フリーポート社の子会社と天然ガス液化加工契約</b> を締結
中下流事業	<b>スペインのLNG基地事業、UAEの発電造水事業</b> に参画 <b>シンガポールにおけるガス販売事業</b> に参画

## ■ 環境・非エネルギー事業

全般	<b>既存事業が着実に力をつけ、セグメント利益は190億円まで成長</b>
再生可能エネルギー	国内4箇所およびカナダにて <b>メガソーラー事業</b> に参画 国内3箇所(既存分と合わせて計5箇所)および豪州にて <b>風力発電所</b> を新たに取得

## ■ 株主・お客さま還元

配当	2010年度に <b>1円増配</b> 、2012年度に <b>0.5円増配</b> を予定(2013年度は年間9円/株を予定)
自己株式取得	2010年11月～2011年1月に <b>自己株式200億円</b> を取得し消却
料金改定	2012年2月に小口平均 <b>1.20%の料金値下げ改定</b> を実施

こちらに挙げております通り、  
 国内エネルギーサービス事業、海外エネルギーバリューチェーン事業、  
 環境・非エネルギー事業のそれぞれにおいて、  
 ビジネスフィールドの拡大を図るための取り組みを進めています。

# 14.3期経営方針

## ■ 重点課題

### (1) お客さま・社会のニーズにお応えした エネルギー事業の進化

- 北米シェールガス輸入実現に向けた取り組み
- 分散型発電の普及に向けた取り組みの加速
- 電力・広域エネルギー事業の拡大
- 製造・供給ネットワークのさらなる強靱化

### (2) 海外エネルギー事業の更なる飛躍

- シンガポールにおけるガス販売事業の開始

### (3) 多様なグループ企業の成長による収益の拡大

- 材料ソリューション、情報、都市開発、LPG・産業ガス、ライフサービス

### (4) 持続的な成長を支える経営基盤の強化

＊ 次期中期経営計画(2014年度～)の策定

続いて、現行中期経営計画の仕上げの年となる、  
2014年3月期の見通しについて、ご説明します。

2014年3月期は、ご覧の4点を重点実施課題とする方針です。  
また、次期中期経営計画を策定し、年度内に発表する予定です。

# 14.3期見通しのポイント

## ■ 概況

連結売上高	LNG価格の上昇に伴う、ガス販売価格やLNG販売価格の上昇を織り込み、 <b>前年9.3%増収の1兆5,080億円</b> を見込む。
連結経常利益	費用(諸経費、労務費)の減少のほか、関係会社での利益貢献の増加等を織り込み、 <b>前年比11.0%増益の1,000億円</b> を見込む。 <b>時期ずれ差損の想定は103億円。</b>

## ■ ガス販売量

家庭用	平年気温を前提とし、 <b>前年比2.2%減少の2,222百万m<sup>3</sup></b> を見込む。
商・公・医療用	平年気温を前提とすることに加え、お客さまの省エネルギー推進の影響を織り込み、 <b>前年比3.8%減少の1,481百万m<sup>3</sup></b> を見込む。
工業用	新規需要開発やお客さま設備の稼働増加を織り込み、 <b>前年比4.0%増加の4,390百万m<sup>3</sup></b> を見込む。

## ■ その他

新規事業拡大投資	海外エネルギーバリューチェーン事業分野での投資を中心に、 <b>1,380億円の投資</b> を計画。
----------	---

2014年3月期は、増収・増益の見通しです。  
連結売上高は、LNG価格の上昇に伴う、ガス販売価格やLNG販売価格の上昇を織り込み、前年と比べて9.3%増収の1兆5,080億円を見込んでいます。  
連結経常利益は、諸経費や労務費の減少を見込んでいるほか、関係会社での利益貢献の増加等を織り込み前年と比べて11.0%増益の1,000億円を見込んでいます。  
なお、時期ずれ差損の想定は103億円としています。  
ガス販売量について、家庭用では、平年気温を前提としたことにより、下期が低気温であった前年を2.2%下回る22億2,200万m<sup>3</sup>を見込んでいます。  
商業用・公用・医療用は、家庭用と同様に気温影響を補正するとともに、お客さまの省エネルギー推進の影響を織り込み、前年を3.8%下回る14億8,100万m<sup>3</sup>を見込んでいます。  
工業用は、新規需要開発や、お客さま設備の稼働の増加を織り込み、前年を4.0%上回る43億9,000万m<sup>3</sup>を見込んでいます。

新規事業拡大投資は、引き続き積極的に進めることとしており、海外エネルギーバリューチェーン事業分野での投資を中心に、1,380億円の投資を計画しています。

# 14.3期ガス販売見通し

45MJ/m <sup>3</sup>		A. 14.3期 見通し	B. 13.3期 実績	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	7,112	7,086	+26	+0.4%
	新設工事件数(千件)	98	91	+6	+7.1%
	家庭用1戸当り販売量(m <sup>3</sup> /月)	31.6	32.5	-0.8	-2.6%
	家庭用	2,222	2,272	-51	-2.2%
	商・公・医療用	1,481	1,540	-59	-3.8%
	工業用	4,390	4,222	+169	+4.0%
	業務用計	5,871	5,761	+110	+1.9%
	他ガス事業者向け	466	469	-3	-0.7%
	(うち大口供給)	(5,053)	(4,894)	(+159)	(+3.2%)
	ガス販売量合計(百万m <sup>3</sup> )	8,559	8,503	+56	+0.7%
連結ガス販売量	8,589	8,534	+55	+0.6%	

2014年3月期のガス販売見通しを、こちらにまとめております。

大阪ガス個別のガス販売量は、前年を0.7%上回る  
 85億5,900万m<sup>3</sup>を見込んでいます。

# 14.3期見通し I

( )内は連単倍率

連結:億円	A. 14.3期 見通し	B. 13.3期 実績	A-B	A-B/B (%)
売上高	(1.26) 15,080	(1.24) 13,800	+1,279	+9.3%
営業利益	(1.75) 1,000	(1.84) 847	+152	+18.0%
経常利益	(1.61) 1,000	(1.63) 901	+98	+11.0%
当期純利益	(1.52) 645	(1.49) 524	+120	+22.9%
SVA	274	186	+87	+46.9%
連結ガス販売量	百万m <sup>3</sup> 8,589	8,534	+55	
時期ずれ差損益	億円 -103	-207	+104	
為替レート	円/\$ 95	83.1	+11.9	
原油価格	\$/bbl 115	113.9	+1.1	

SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

13

Design Your Energy 夢ある明日を  
OSAKA GAS

こちらには、収支等の見通し数値をまとめておりますので  
ご確認下さい。

前提となる為替レートは、1ドル95円、

前提となる原油価格は、1バレル115ドルとしています。

## 14.3期見通し II

連結：億円	A. 14.3末見通し	B. 13.3末実績	A-B
総資産	16,258	15,668	+589
自己資本	7,673	7,478	+194
有利子負債	6,070	5,401	+668
在籍人員	20,201	19,870	+331
自己資本比率	47.2%	47.7%	-0.5
D/E比率	0.79	0.72	+0.07
	A. 14.3期見通し	B. 13.3期実績	A-B
設備投資	1,347	1,129	+217
減価償却費	801	828	-27
フリーキャッシュフロー	889	850	+38
ROA	4.1%	3.4%	+0.6
ROE	8.6%	7.3%	+1.3
EPS (円/株)	31.0	25.2	+5.8
BPS (円/株)	368.5	359.2	+9.4

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出。Design Your Energy 夢ある明日を

14

 OSAKA GAS

資産・負債項目や、主な財務指標の見通しは、ご覧の通りです。

新規事業拡大投資などの資金需要に対応するため、有利子負債は、前年を668億円上回る6,070億円となる見通しです。

設備投資は、姫路・岡山ラインの建設や、海外における上流権益の開発投資を進めることなどから、前年を217億円上回る1,347億円を見込んでいます。

ROA・ROEについては、それぞれ前年を上回る4.1%・8.6%を見込んでいます。

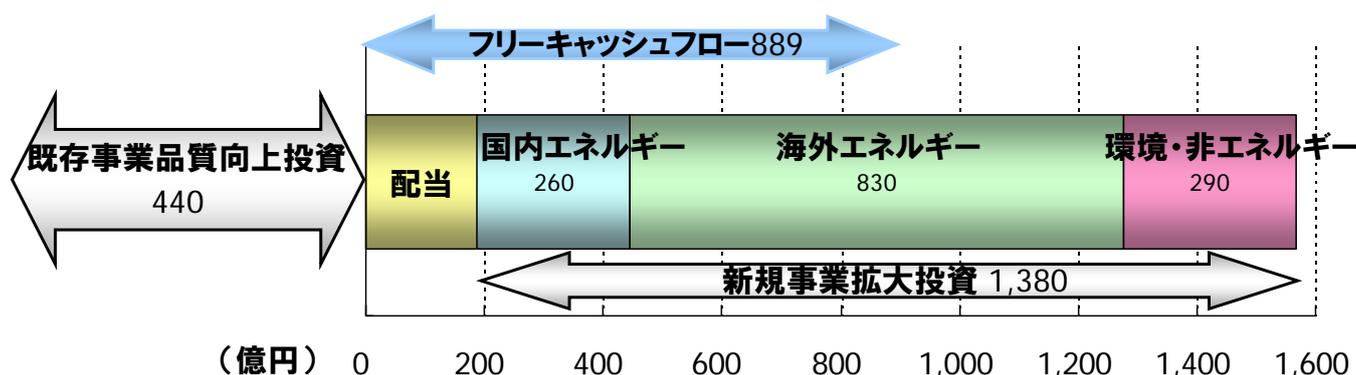
現行の中期経営計画においては、2014年3月期に、ROA3.5%程度、ROE8.0%程度を目指すこととしており、この水準を上回る見通しです。

## 14.3期連結フリーキャッシュフローの使途

- 14.3期のFCFは、前期並みの889億円となる見通し。
- 新規事業拡大投資は、1,380億円を計画。

国内エネルギーサービス事業	基幹導管建設など
海外エネルギーバリューチェーン事業	意思決定済案件への支出 新規案件の発掘・取得
環境・非エネルギー事業	収益不動産取得、新規案件の発掘・取得

- 14.3期は年間配当9円/株を目指す。



(億円) 0 200 400 600 800 1,000 1,200 1,400 1,600  
フリーキャッシュフロー=営業活動によるキャッシュフロー - 通常設備投資(既存事業品質向上投資)による支出。  
 投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の計画値とは異なる。

Design Your Energy 夢ある明日を  
**OSAKA GAS**

15

最後に、フリーキャッシュフローの使途について、ご説明します。  
 2014年3月期のフリーキャッシュフローは、889億円となる見通しです。  
 総額1,380億円の新規事業拡大投資の実行を見込んでおり、  
 これをフリーキャッシュフローと借入金で賄う予定です。

新規事業拡大投資については、  
 半分強を海外エネルギーバリューチェーン事業への投資に充てる予定です。  
 既に参画を意思決定した、オーストラリアや米国における上流案件への  
 キャッシュアウトを織り込んでいるほか、  
 引き続き、新規案件の発掘・取得を進めます。

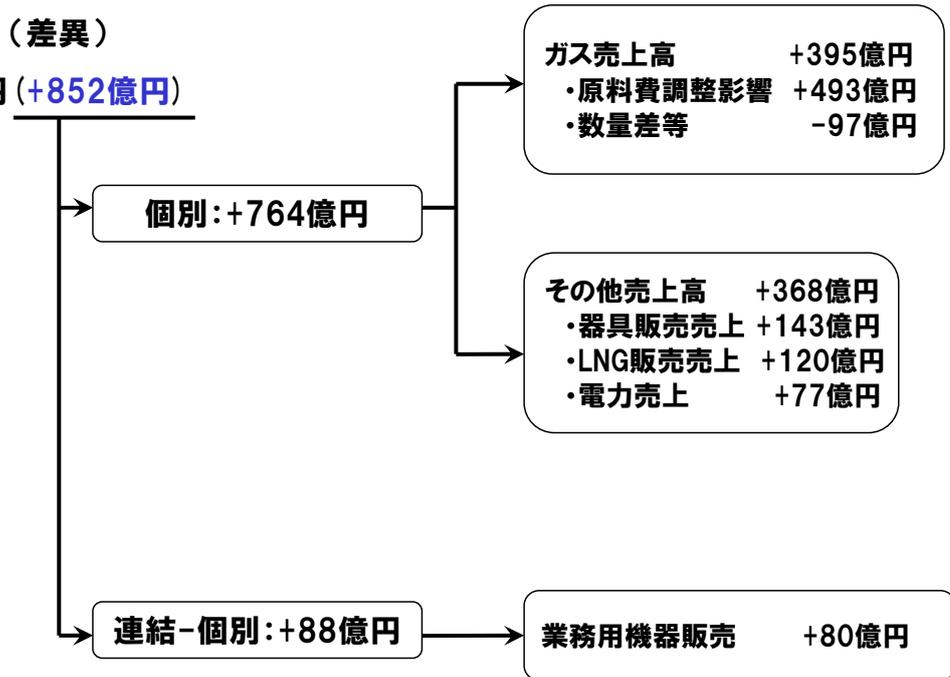
このほか、国内エネルギーサービス事業では、三重・滋賀ラインや  
 姫路・岡山ラインなどの基幹導管の建設を進めるほか、  
 環境・非エネルギー事業では、収益不動産の取得などを進めます。

以上で、2013年3月期決算と、2014年3月期の見通しについてのご説明を終わらせていただきます。

## II. 参考資料

# 13.3期の売上高差異(対前年)

12.3期 → 13.3期 (差異)  
12,947億円 13,800億円 (+852億円)

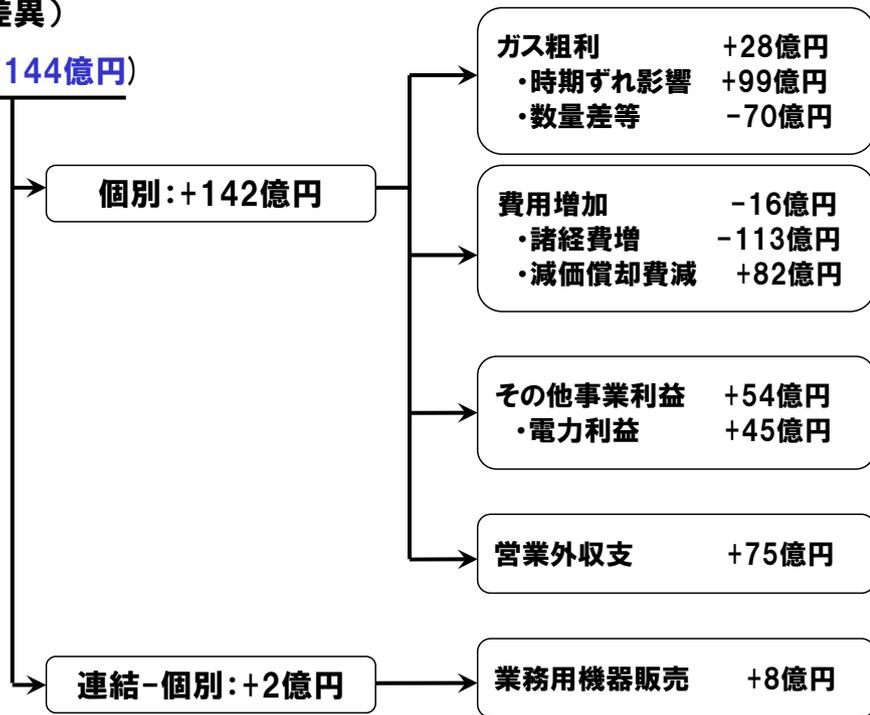


# 13.3期の経常利益差異(対前年)

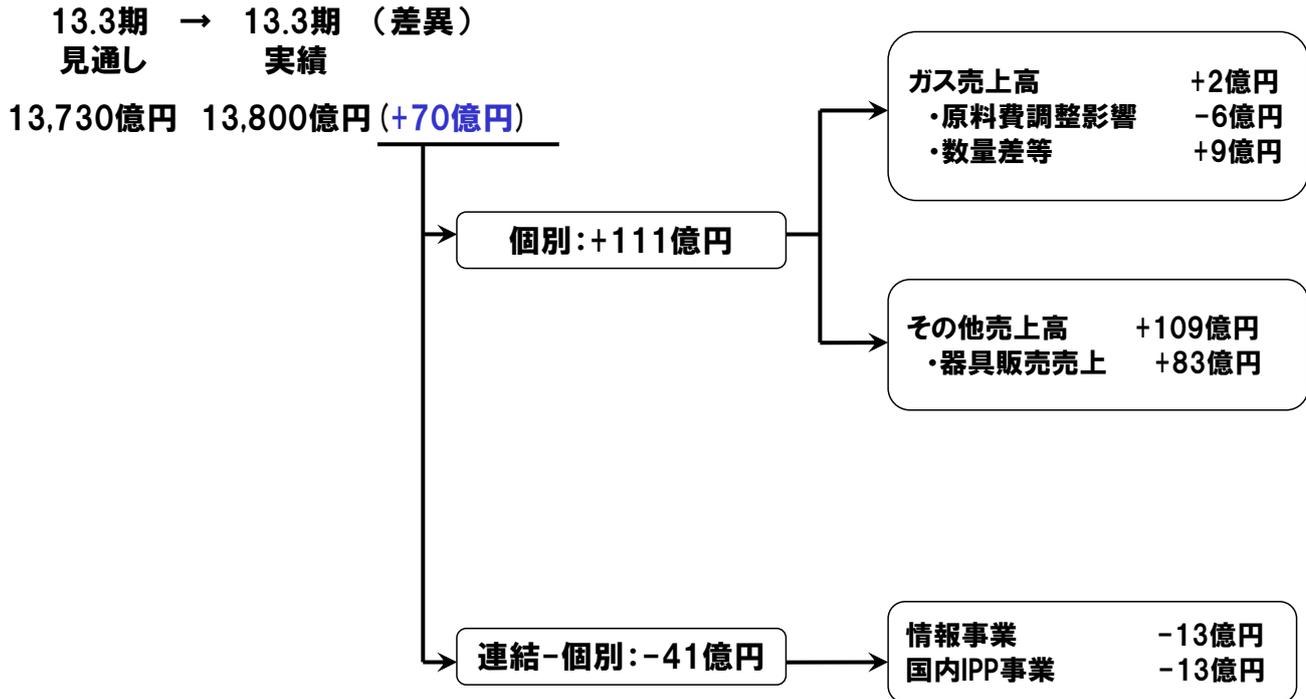
12.3期 → 13.3期 (差異)

756億円 901億円 (+144億円)

+-の符号は、利益影響を表す。



# 13.3期の売上高差異(対見通し)

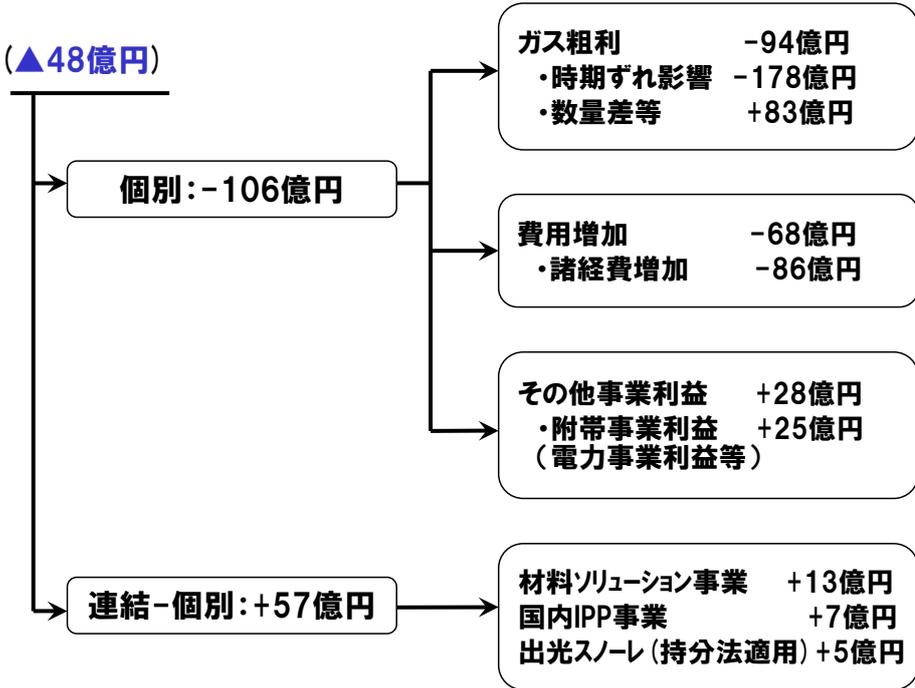


# 13.3期の経常利益差異(対見通し)

13.3期 → 13.3期 (差異)  
見通し 実績

950億円 901億円 (▲48億円)

+-の符号は、利益影響を表す。



# 13.3期セグメント別実績

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	13.3期	12.3期	13.3期	12.3期	
ガス	10,385	9,765	233	209	売上:ガス販売単価増 利益:時期ずれ差損の縮小
LPG・電力・ その他エネルギー	2,155	1,980	382	324	売上:LNG販売、電力売上増など 利益:電力利益増など <b>電力事業利益</b> (*):12.3期206億円 13.3期252億円
海外エネルギー	107	111	76	86	スペインLNG基地、米国IPP利益減
環境・ 非エネルギー	1,856	1,845	190	185	売上:材料ソリューション事業売上増など 利益:フィットネス事業利益増など
消去又は全社	-704	-755	27	22	
連結	13,800	12,947	911	829	

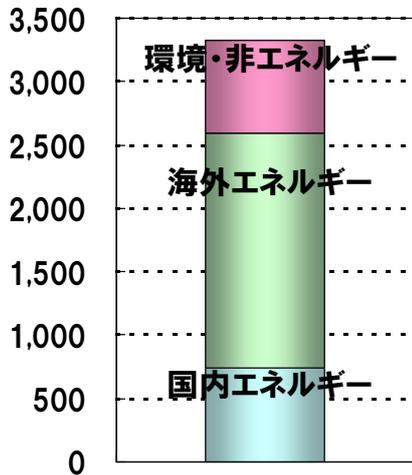
(\*) セグメント利益=営業利益+持分法投資利益

(\*) 電力事業利益は、大阪ガス附帯電力事業の営業利益を表示。

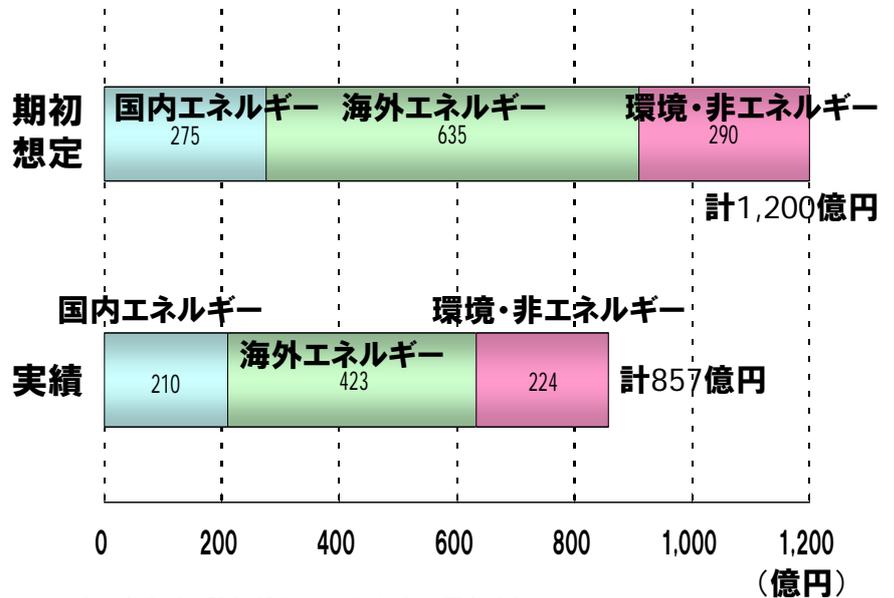
# 13.3期新規事業拡大投資実績

- 10.3期からの累計意思決定済金額は**3,320億円**(10.3期～14.3期計画額の83%)。
- 13.3期の投資実施額は857億円。

10.3期からの  
(億円) 累計意思決定済金額



13.3期の新規事業拡大投資

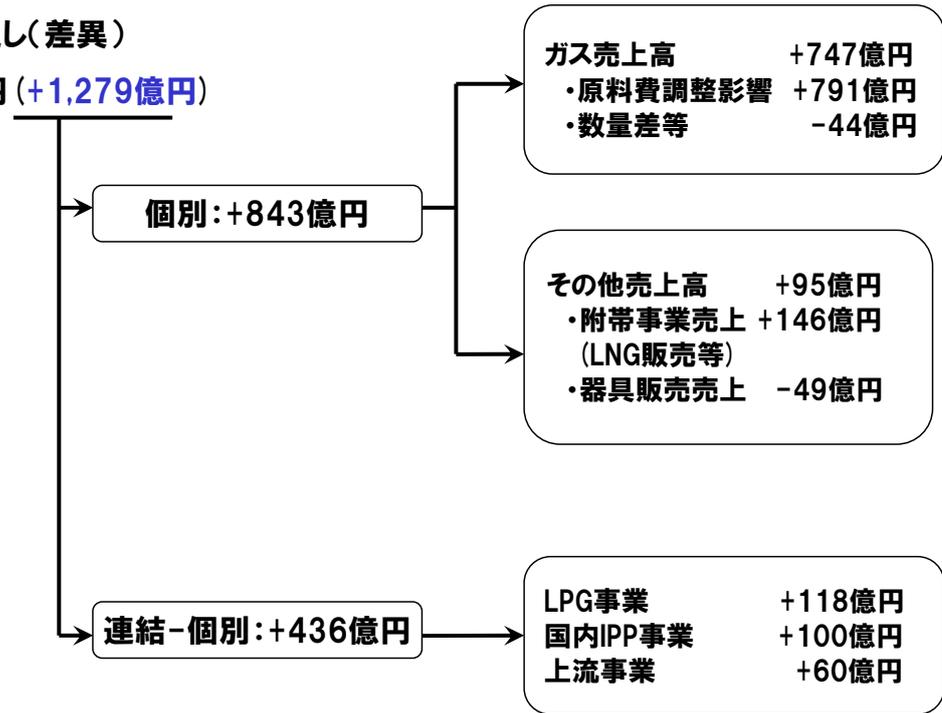


投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。

# 14.3期売上高見通しの前年差異

13.3期実績→14.3期見通し(差異)

13,800億円 15,080億円 (+1,279億円)



# 14.3期経常利益見通しの前年差異

+-の符号は、利益影響を表す。

13.3期実績 → 14.3期見通し(差異)  
901億円      1,000億円(+98億円)

個別:+66億円

ガス粗利            -5億円  
・時期ずれ影響    +104億円  
・数量差等           -109億円

費用減少            +124億円  
・諸経費減少        +70億円  
・労務費減少        +46億円

営業外収支           -43億円

連結-個別:+32億円

上流事業            +18億円  
情報事業            +7億円  
国内風力発電事業    +6億円

# 14.3期セグメント別見通し

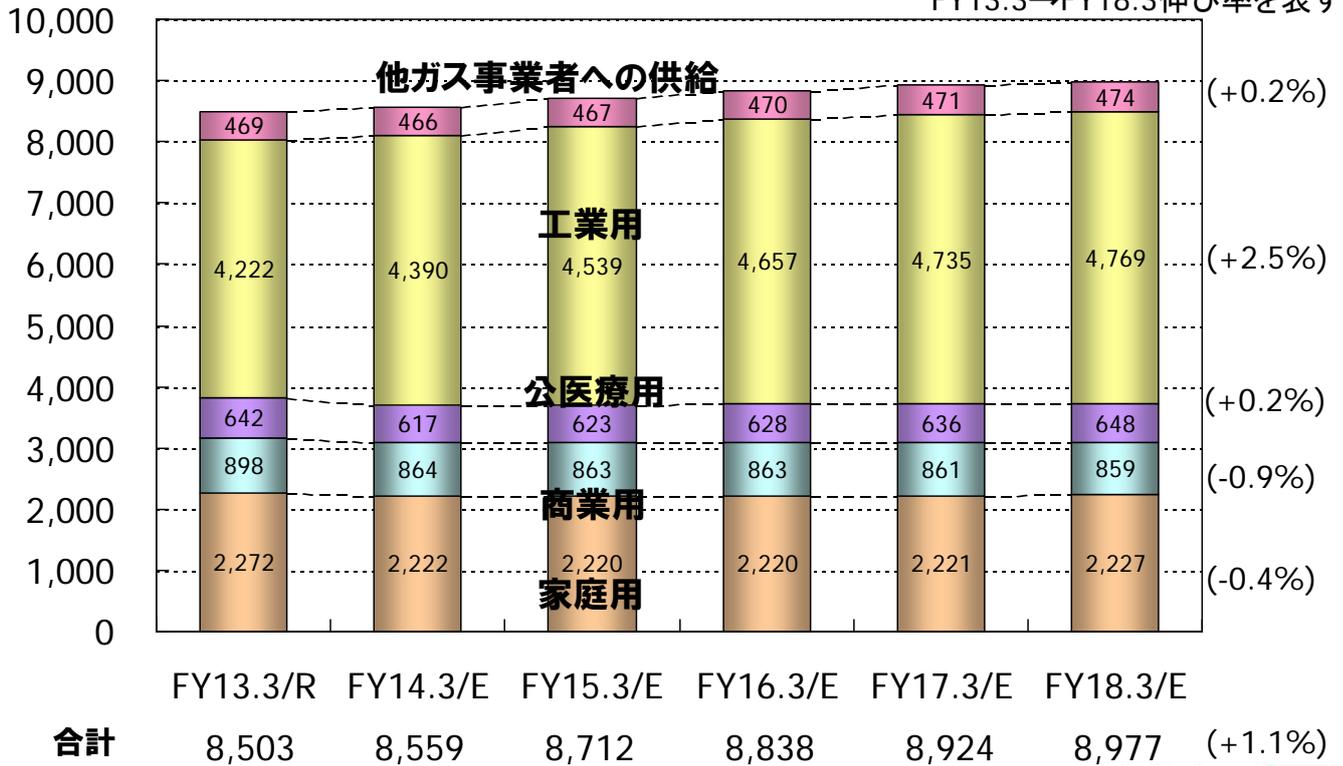
単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	14.3期 見通し	13.3期 実績	14.3期 見通し	13.3期 実績	
ガス	10,840	10,385	343	233	売上:ガス販売単価増 利益:時期ずれ差損の縮小
LPG・電力・ その他エネルギー	2,580	2,155	389	382	売上:LNG・LPG販売単価増など 利益:LNG・LPG販売利益増など
海外エネルギー	175	107	94	76	上流事業利益増など
環境・ 非エネルギー	1,995	1,856	201	190	売上:不動産売上増など 利益:情報事業利益増など
消去又は全社	-510	-704	29	27	
連結	15,080	13,800	1,056	911	

(\*)セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益

# 個別ガス販売量の中期見通し

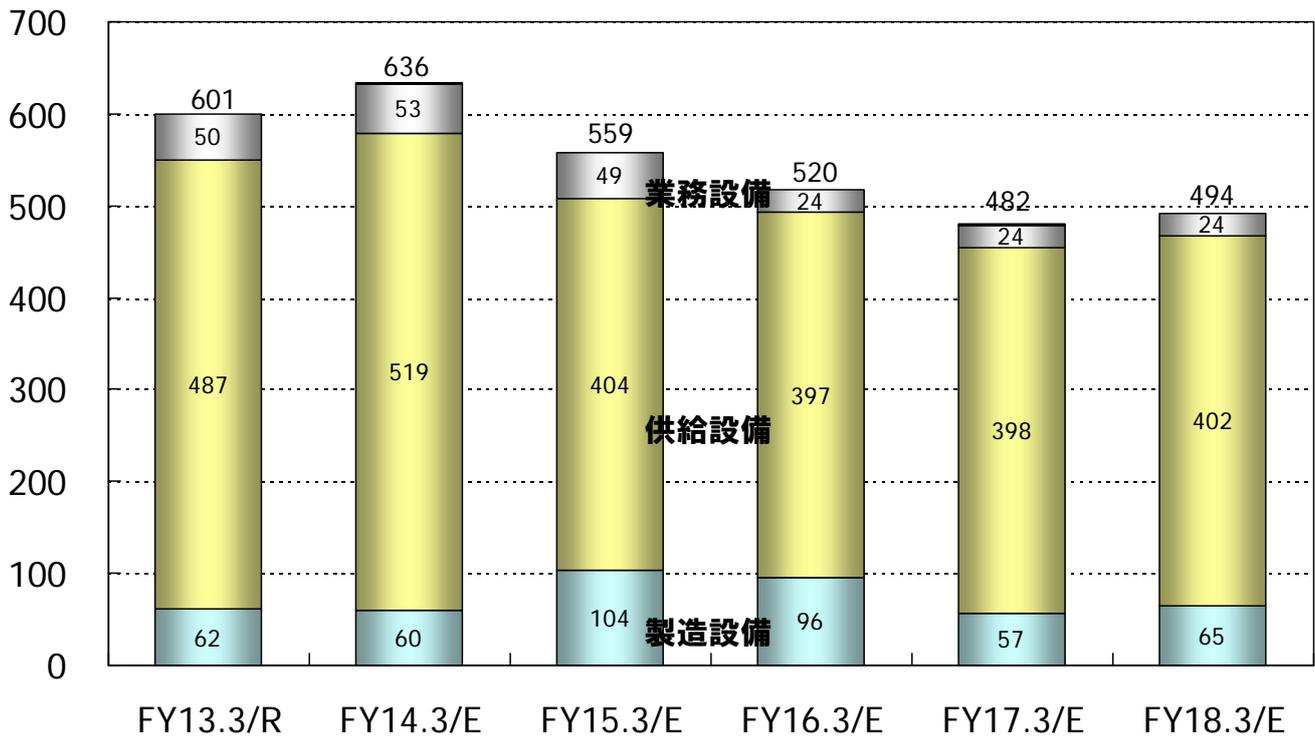
(45MJ, 百万m<sup>3</sup>)

グラフ右欄外の( )内は、  
FY13.3→FY18.3伸び率を表す



# 個別設備投資の中期見通し

連結：億円



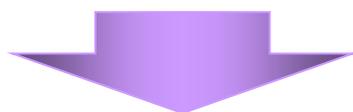
Design Your Energy 夢ある明日を



# 家庭用ガス販売

## 13.3期実績

	対前期	備考
調定件数	+0.3%	
気温影響	+0.0%	年間平均気温16.7度(前期16.9度)
その他	▲0.3%	
合計	+0.1%	



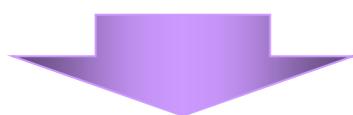
## 14.3期見通し

- 平年気温を前提とすることにより、気温が前年より高めに推移すると想定、対前期比-2.2%、51百万m<sup>3</sup>減の2,222百万m<sup>3</sup>を見込む。

# 商・公・医療用ガス販売

## 13.3期実績

	対前期	備考
需要開発	+0.9%	公用物件や医療用物件の新規稼動
気温日数影響	+0.4%	下期の気温が低く推移したことによる暖房需要の増加
その他	▲3.6%	お客さまの省エネルギー推進等
合計	▲2.2%	



## 14.3期見通し

- 平年気温を前提として、お客さまの省エネルギー推進の影響などを織り込み、対前期比-3.8%、59百万m<sup>3</sup>減の1,481百万m<sup>3</sup>を見込む。

# 工業用ガス販売

## 13.3期実績

	対前期	備考
需要開発	+2.4%	新規物件の稼動開始
稼動増減等	▲5.4%	お客さま設備の稼動減少など
合計	▲3.1%	

## 主な業種別実績 (45MJ, 百万m<sup>3</sup>)

	販売量	販売量 構成比	対前期比
機械	376	8.9%	100.6%
金属	1,011	23.9%	92.9%
ガラス	335	7.9%	99.6%
化学	1,166	27.6%	102.6%
食品	520	12.3%	100.5%

## 14.3期見通し

- 油燃料を中心とした他燃料からの天然ガス転換を継続し、新規需要開発を進めるとともに、お客さま設備の稼動増加により、対前期比+4.0%、169百万m<sup>3</sup>増の4,390百万m<sup>3</sup>を見込む。

# 13.3期月次ガス販売の推移

## 前年同月比 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	
家庭用	100.7	98.0	90.0	102.6	101.6	88.8	87.3	111.9	117.7	105.3	96.1	91.5	100.1	
商・公・ 医療用	99.1	97.5	90.7	90.2	96.2	101.2	95.3	102.2	110.8	106.9	94.5	91.6	97.8	
工業用	99.6	102.8	100.6	102.4	96.7	96.1	98.3	99.2	98.9	88.7	88.7	93.9	96.9	
業 種 別	機械	121.2	109.2	111.2	118.4	104.6	105.4	106.4	104.5	95.3	94.1	81.0	100.6	
	金属	96.4	102.5	104.3	102.6	96.9	95.1	88.6	85.0	86.0	85.8	82.9	92.9	
	ガラス	100.5	97.1	99.4	100.0	99.5	100.9	94.8	107.0	101.6	100.2	95.1	99.6	
	食品	99.6	100.5	99.2	104.1	103.3	100.2	102.6	102.0	103.3	101.1	94.3	96.0	100.5
	化学	96.1	102.5	101.0	105.8	102.3	102.0	96.8	99.0	119.2	101.3	102.9	103.1	102.6
卸	96.7	92.8	93.2	108.4	90.5	92.1	111.2	100.9	103.6	94.8	96.6	95.5	97.7	
計	99.8	100.0	96.1	100.1	96.8	96.2	96.4	102.8	106.5	98.0	92.6	92.8	97.9	

# 年度見通しに対するリスク要因

- **気温・水温**
  - 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。
- **原油価格**
  - LNG価格は原油価格にリンクするために、原油価格1\$/bblの変化に対して、今年度の経常利益は11億円変動する可能性がある。
- **為替レート**
  - LNG価格は米ドル・円の為替レートにリンクするために、為替レート1円/\$の変化に対して、今年度の経常利益は15億円変動する可能性がある。
- **原料費**
  - 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。
- **金利**
  - 金利1%の変動に対して、今年度の連結営業外費用が年間5億円変動する可能性がある。